

令和元年度 調布市立 神代 中学校 学校評価報告書

様式1

領域	自己評価結果の概要	学校関係者評価結果の概要	次年度への改善策	次年度優先順位
学力向上	<ul style="list-style-type: none"> 第1学年と第2学年において数学・英語の習熟度別少人数授業を実施し基礎学力の定着を図ることができた。 ① 教科の中でも、習熟度授業においてICTを活用して、生徒にとって分かりやすい授業を実施することが出来ていた。 ② 生徒による授業評価を1・2学期に実施し、授業改善推進プランを活用することにより、職員の授業力向上にもつながった。 3年生の全国学力調査、2年生の東京都学力調査ともに、全国や東京都の平均を上回る成績であり、習熟度別学習などの効果が現れていた。 ① 特に3年生の全国学力調査では、国語では学習指導要領の領域では全国・都の平均を大きく上回った。国語・数学では問題形式でも全国・都の平均を上回ることができた。 ② 2年生でも、理科では思考・判断・表現は平均を下回ってしまったが、平均値を上回ることができた。 長期休業中には学習補充教室を開催し、休業明けには学年ごとに教科別の小テストなどを計画的に実施することができた。 「特別な教科 道徳」について3年生で研究授業を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 少人数授業が今年度より数学・英語で1・2年生で実施できたことにより、生徒の関心意欲も向上し、学力も向上したと感じられました。ありがとうございました。できる早く、全学年で実施できることが望ましいです。 少人数クラスの編成はどの様に行っているのですか。 ⇒ 数学は単元によりクラス編成を変えております。英語は能力別にすることにより、コミュニケーション力に欠けてしまうことが予想されていますので、能力を確認しながら均等割りにしております。 2・3年生の調査結果は素晴らしいと結果となりました。すべての項目で平均値を上回ることを目指して継続したご指導をお願いいたします。 学校全体が、落ち着いた雰囲気の中で過ごすことができています。授業態度も中には集中できない生徒も見受けられましたが、全体的にしっかりと取り組み安心をしてみています。 	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領の変更にともない、生徒の学習意欲がより向上できるように、自ら学び考える生徒の育成を目指す。 ☆ 生徒主体の授業が進められるよう、職員に授業改善を意識させる。 朝学習を朝読書に切り替え、集中力の向上を目指し、読解力の向上を目指す。 教職員同士の指導力向上のため、教師同士に授業を参観させ、学校として教職員の指導力の向上を目指す。 そのために、教師間のOJTの意識を高めさせ、全職員で生徒に分かりやすい授業を目標にしていく。 	A
健全育成	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートより、約9割の生徒が「学校に行くのが楽しい」と感じ、上級生になるほど「悩みや相談を聞いてくれる友達がいる」と約9割の生徒が感じてくれた。 挨拶ができ、基本的な生活習慣も9割以上の生徒が出来ていると感じていた。 生徒会は7月にサウジアラビア大使館を訪問し、2年生は10月にサウジアラビア大使館の方に来校していただき、国際理解教育を実践した。 2年生は職場体験前にハローワーク職員による職業講話をしていただいた。 3年生全員が普通救命講習を受講させることが出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学校に行くことが楽しい」と感じる生徒がさらに増えるよう、生徒の意見を聞き入れながらの学校経営をお願いします。 挨拶については、誰もが大切と考えておりますので、多くの生徒が来校者の方々に進んで挨拶ができるよう御指導ください。 オリンピック・パラリンピックに対しての取り組みとして、多くの国際交流を目指していただけたらと思います。 新校舎の図書室や音楽室、美術室、少人数教室が完成し、図書室の利用生徒数も増加した。学習室も広いスペースで環境もよく、登校できなかった生徒たちの顔にも笑顔が見られるようになりました。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣を身に付けさせ望ましい人間関係を構築して、今後も挨拶が励行していけるよう、積極的に取り組ませる。さらに、いじめ防止や不登校生徒への対応を積極的に取り組む。 生徒・保護者が安全に安心して通学できる学校を目指す。同時に、職員も働きやすい環境となるよう組織全体で取り組む。 他者の意見を尊重し、自分の考えをまとめ発表して、相手に伝わる力を身に付けられる人間を育成する。 自らの進路を真剣に考え、発達状況に応じた計画的なキャリア教育を推進する。その為に、勤労観・職業観を育成する。 国際理解教育を推進するため、オリンピック・パラリンピック教育を推奨し、アスリート等の講師を招聘し学習に取り組む。 	B
健康・体づくり	<ul style="list-style-type: none"> 二学期にパラリンピック教育の一環として、車いすダンサーの神原健太さんに公演を依頼し、どのような環境でも自らの目標に向けて全力で向かっていくことや、あきらめない気持ちを持つことの大切さを学んだ。 1年生はブラッシング指導、2年生は薬物乱用防止教室などを実施するにあたり、外部機関との連携を図った。また、学校保健委員会も11月に開催することが出来た。 生徒アンケートの「学校の清掃活動がしっかりと行われている」という問いに対して9割以上の生徒が肯定的な意見をもってくれた。 保健体育科と部活動の顧問が連携を図り、学校全体の体力向上を推進することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> オリンピック・パラリンピック教育では、毎年様々な計画を有り難うございます。次年度も生徒たちが関心を持ってくれるように内容で実施できることを期待しております。 健康教育の取り組みは継続的にできればありがたい。 次年度は体力向上面についても、提案していただきたいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> 2020年のオリンピック・パラリンピック大会の年でもあり、生徒たちがよりオリンピック・パラリンピックに関心が高まるご指導をお願いいたします。 市内の保健関係や他機関との連携を図り、生徒の健康づくりに関心意欲を高めさせる。また、保護者にも学校保健委員会への積極的な参加を促し、学校全体での意識を高める。 保健体育科と部活動顧問との連携を図り、本校生徒全体の体力向上を目標とする。体力調査結果などを分析し東京都の平均値を超えるよう具体的な計画を立てさせる。 学校生活の中で、過ごしやすい環境を設定できるよう、職員・生徒から情報を収集し、事務・副校長と協力して環境づくりを目指す。 	B
保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりやHP等で情報を発信することができた。先生方からも学年だよりや学級だよりが多く発行されるようになった。 自転車登校者による交通事故が1件起こりました。事故が発生しないように生活指導部を中心に学校全体で指導の徹底をおこなって行く。 生徒達が安全に下校できるよう、部活動終了時間を徹底し下校時間の厳守ができた。 生徒会は地区の防災訓練に、合唱部は地域コンサートに、部活動においてPTA活動の夏季休業日の清掃活動や地域運動会の活動に参加することができた。 生徒アンケートの「神中生としての誇りを感じている」生徒が9割以上の生徒がいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信はとても大切なので、継続的に発信していただけたらと思います。学年だよりや学級だよりでも生徒の様子がよくわかり、とてもありがたかったです。 自転車での事故は毎年ようですが、ヘルメットの着用がきちんと義務づけられました。生徒によってあごひもの正しい着用が成されていない生徒も目につきました。今後とも指導をお願いします。 指導は継続的に続けることが大切です。 地域行事への教職員・生徒の参加はとても感謝しております。一層の参加をお願いします。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校だより・HPでの情報発信は継続的におこなう。学年だよりや学級だよりでもHPでの発信を検討して欲しい。 生徒、保護者アンケートはよりよい物にできるよう、検討を続けてください。 自転車登校者の交通事故が減少してきたことはとても良いことです。今後はさらにゼロを目指して指導に力を入れる。 地域行事に生徒・職員が積極的に参加できるよう助言し、協力体制を構築する。 あらゆる面で、神中生としての「誇り」をもって行動できるように指導していく。 	B
特色ある教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 二年間の研究発表校として、東京都『持続可能な社会づくりに向けた教育推進校』、調布市「教育推進校」としての一年目の中間発表が終えることができた。 ①SDGsの取り組みとして、授業や行事にも17項目意識付けすることができた。 ②教科横断の学年別SDGsカレンダーも作成することができた。 ③教師全員がSDGsに対する意識を高めることができ、生徒も関心を高めることができた。 毎月の職員会議後に職員間でのOJTを実施し、職員の資質向上に努めた。 食物アレルギー研修もシミュレーショントレーニングを含めて、3回の研修会を実践した。 地域への小学校に出前授業を実践することができた。 特別な支援を必要とする生徒が通常学級にも多く在籍しており、特別支援校内委員会で、指導法やその生徒に対しての対処法を話し合い、情報交換をおこないながら、学校全体に周知することができた。 教室に入れられない生徒等に対して、特別支援校内委員会で学習室や特別支援学級などを検討する場として、スクールカウンセラーを交えて検討する場を設置し、相談し合う場を設置することができた。 体育祭や合唱祭を通じて、生徒同士が上級生から下級生への指導を行い、伝統を引き継いでいけるよう取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究発表会はお疲れさまでした。とても素晴らしい内容だったと感じます。二年目の本発表に向けての課題は多くあると感じられますが、無理のない内容で、いつもの神代中らしい学校の発表をお願いいたします。 今後とも、先生同士の資質向上ができるよう体制づくりをお願いします。 食物アレルギーは安心したときに起きたりしますので、継続的にしっかりとしたご指導をお願いします。 特別支援教育や教室には入れられない生徒の指導では、個別に応じた指導で有り、ご苦勞様です。生徒一人一人を見守ることですが、地域でも見守りますので、学校全体での共通理解の上、対応をお願いします。 体育祭や合唱祭での上級生から下級生への指導は毎年、楽しみにしております。是非、無くさないよう続けていって欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 二年目の本発表に向けては、研究部を中心に職員に負担が掛からないような内容で計画をしていきたいと考えています。 職員の授業力や技能向上を目指し、校内でのOJTを大切にしていきたいです。 特別支援、教室には入れられない生徒の為に、SCとの関わりを大切にして、特別支援校内委員会の開催を継続し、職員への周知を徹底する。不登校生徒に対しては、早期の対応ができるよう指導体制の構築をする。 地域小学校との連携を大切に、出前授業や小中連携会議を推奨していく。 行事を通じて、上級生・下級生のつながりを大切にして、伝統を受け継がせる。 	A